

上田文雄札幌市長と、大学生が 市政を考える



コーケイヤク

を考える 公開授業

みなさんはコーケイヤク（公契約）条例ってご存じですか？いま札幌市議会で継続審議扱いになっている条例です。



不況や自治体財政の悪化、あるいは「官製市場改革」などを背景に、市が発注する仕事（公共事業、民間委託、指定管理者など）の発注価格が下がり、そこで働くひとたちの賃金もそれに連動してどんどん下がっています。

例えば私たちの調査では、建設産業で働く季節労働者（男性）の年収は5割が200万円未満／家庭ごみの収集労働者は非正規雇用だと年収200万円台、正社員でも年収300万円台／あるいは指定管理者施設で働く労働者の雇用はたったの3割しか正職員がない、、、などの実態が明らかになっています。



こうした、いわば官がワーキングプア（官製ワーキングプア）をつくりだしている現状は許されない、発注者である自治体としてきちんと対応しなければならない、働く人たちの賃金の下限額を設けよう（最低限これだけは保障しよう）——自治体によるそんな「反貧困宣言」が公契約条例だと理解していただくと、わかりやすいのではないのでしょうか。

なるほど、それはたいへんよい条例ではないか、ぜひとも早くにつくるべきだ、と思われる方が多いでしょうが、そう簡単にはいきません。どん底に向かった競争を続けてきた私たちの社会のツケ（構造的な問題）が政策の方向転換を困難にしているのです。事実、検討しなければならない諸課題がこの条例審議のなかでいろいろみえてきました。

「最小の経費で最大の効果」。これは地方自治法に出てくる文言です。税金が安くなるならそれでよいではないかと、私たち市民も、私たちの暮らしを支える労働者の「低賃金・低労働条件」化に負担してきたといえないでしょうか。安ければそれでよいのか、この問いがいま私たち市民につきつけられています。

市の仕事で働く人たち・事業者を苦しめてはならない。そんな熱い情熱で奮闘する市長をお招きし、公契約条例そして札幌の市政をみんなで一緒に考えてみませんか。

日時	7月25日（水）12:40～14:10
場所	北海学園大学 D30番教室（7号館3階）
主催・連絡先	川村雅則研究室（経済学部教員） TEL 011-841-1161
参加費	無料（大学生に限らず、どなたでも参加可能です）